

### 市民の皆様へ

## 2030年の稲城に向けたご提案を受け付けています！

稲城市では2030年の稲城に向けて、長期総合計画を策定します。  
あなたの考える2030年の稲城の将来像について、ご提案ください。

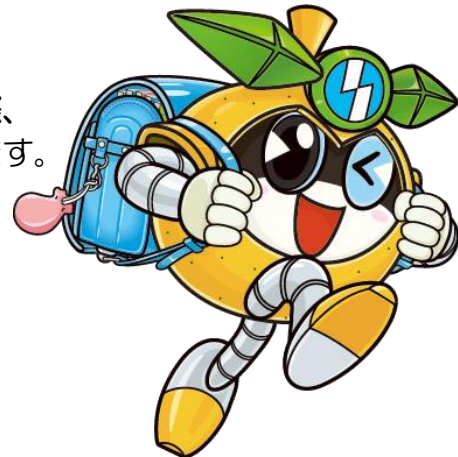
ご提案いただいた内容は、長期総合計画を策定する際、市民の皆様からのご意見として参考とさせていただきます。

ご提案はこちらから

[https://www.city.inagi.tokyo.jp/cgi-bin/form\\_enq/formmail.cgi?d=chouki](https://www.city.inagi.tokyo.jp/cgi-bin/form_enq/formmail.cgi?d=chouki)



個別の返答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。



©K Okawara・Jet Inoue

### 参加者の横顔

戸谷さん

稲城に住んで26年になります。稲城で生まれ育った子ども達に、やはり生まれ育ったところが良いなと思えるようになって欲しいと思い参加させていただきました。

森崎さん

今大学1年生で、大学では多角的に観光を見るという勉強をしています。また、稲城市青年ワーカーとしても活動していて、ジュニアワーカーという小中学生の子と一緒に活動もしています。

長井さん

私のライフテーマはノーマライゼーションとかインクルージョン、障害者も健常者も同じように暮らすことで、障害者が暮らしやすいまちづくりができたらいと、参加させていただきました。

小島さん

出身は新潟ですが、稲城に来て6年目となります。仕事は教員を神奈川県でやっています。大丸囃子保存会に子どもと一緒に参加させてもらってます。

### これからの開催予定

第7回 平成30年12月21日(金)

時間：19:00から

※概ね2時間程度を予定しています。

会場：地域振興プラザ4階 大会議室

・テーマ別討議Ⅳについて、グループに分かれ討議します。

テーマ⑩ 稲城の良さをもっと発信

テーマ⑪ 農業を楽しむまち

テーマ⑫ 子育てしやすいまち



©K.Okawara・Jet Inoue

稲城市

### 2030年の稲城を描く

発行 稲城市

編集 企画部 企画政策課 長期総合計画担当

〒206-8601 稲城市東長沼 2111

☎042-378-2111 (代表) 内線 532

e-mail chou\_kei5@city.inagi.lg.jp

# 2030年の稲城を描く

No.6

市民会議 11月30日開催

### 第6回 市民会議を開催しました

11月30日、地域振興プラザにおいて「2030年の稲城を描く市民会議」第6回を開催しました。討議テーマの意見を出し合った第3回市民会議の結果を踏まえ、第4回及び第5回市民会議に引き続き3つのテーマに分かれて、意見交換を行いました。

### 2030年の稲城を描く市民会議

## 3つのテーマに分かれて 意見交換

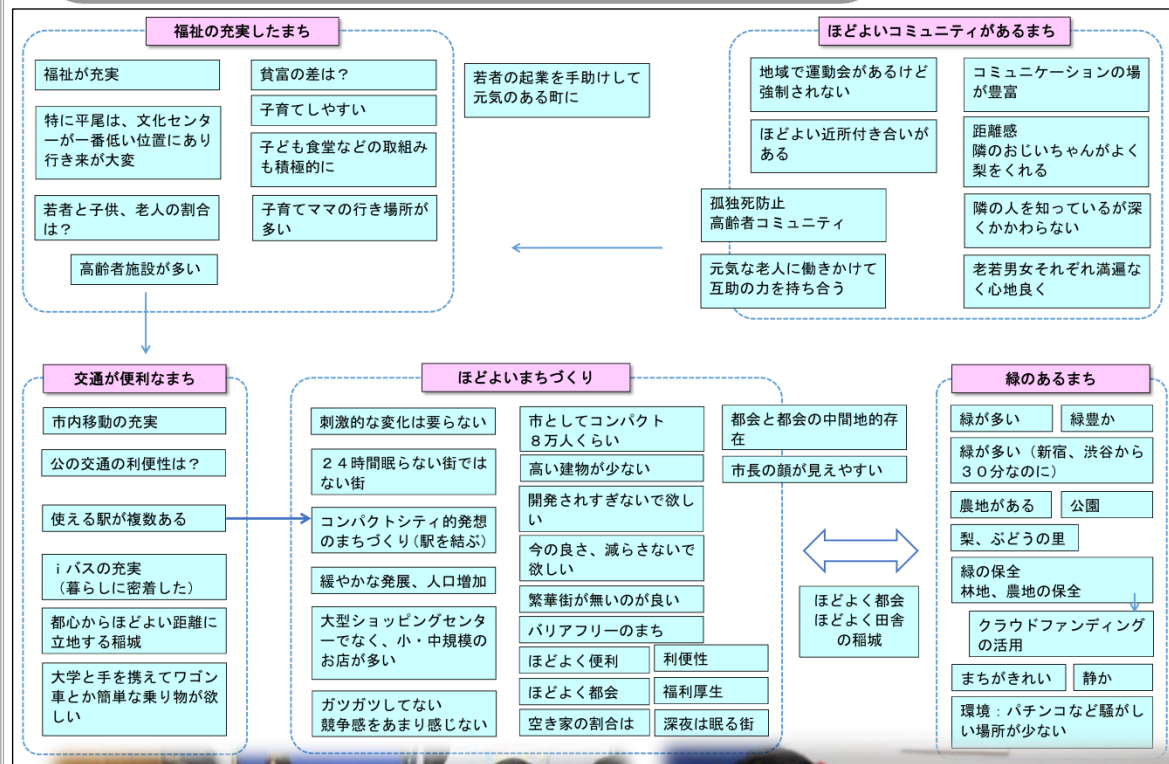


グループ別の意見交換・まとめ

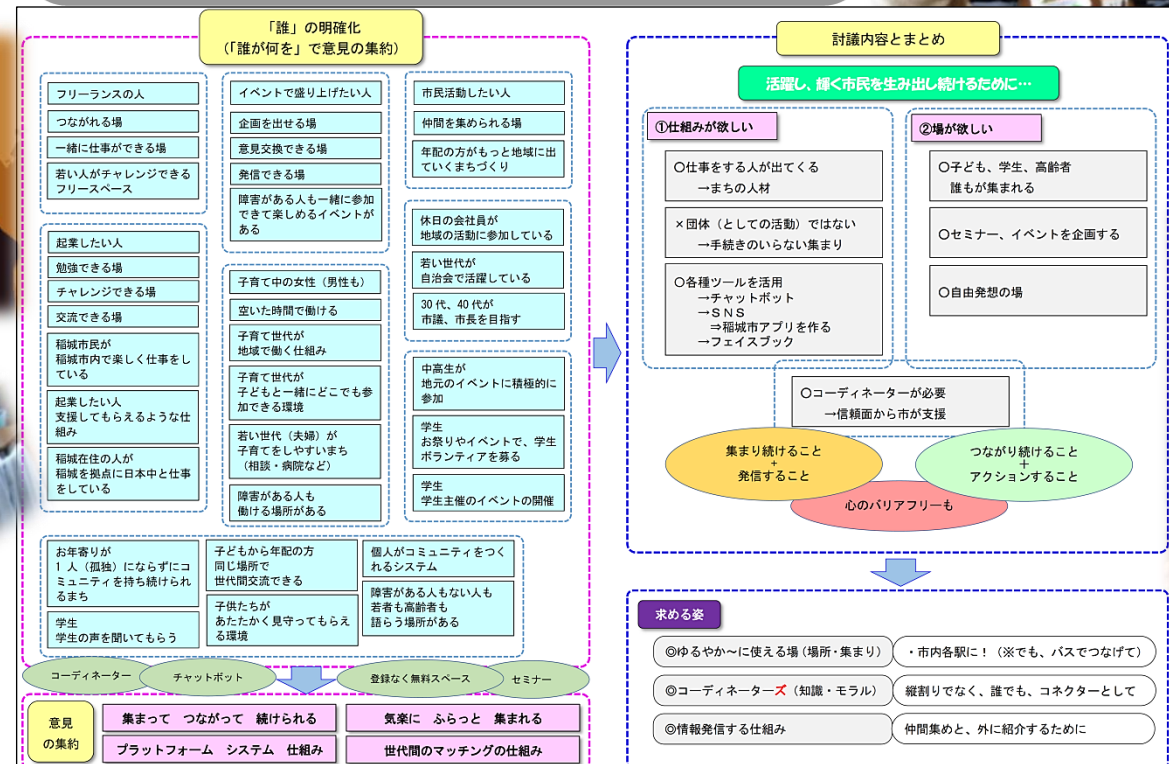
グループ別の発表・質疑応答

『テーマ別討議III』について討議し、発表しました！

テーマ① ほど良く居心地の良いまち

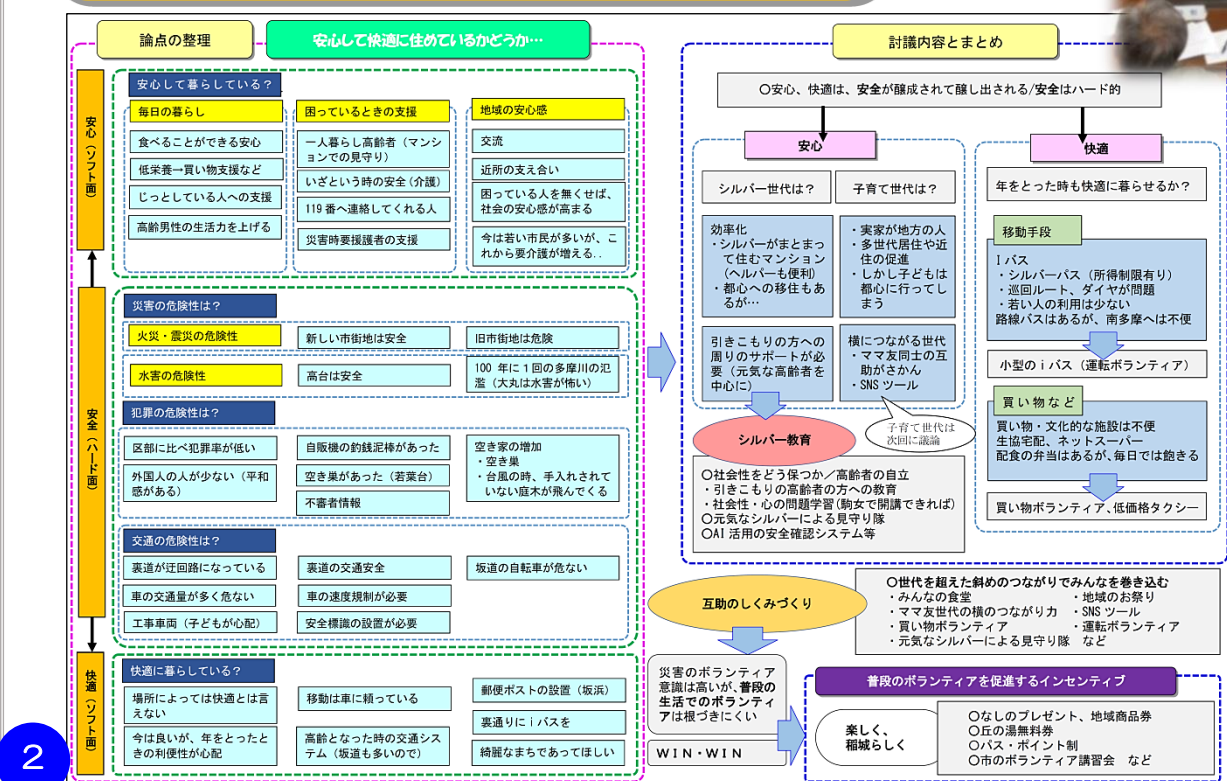


テーマ⑨ 誰もが活躍し輝けるまち



テーマ別討議IIIの発表

テーマ⑧ 安心して快適に暮らせるまち



テーマ① ほど良く居心地の良いまち

○居心地の良さは、福祉が充実していること、コミュニティがちゃんとあること、交通が便利であること、ほど良いまちづくり(無理に都会になろうとしない)、緑があるまちの5項目。  
 ○今の稲城は、この5項目はまあまあ出来ており、私達は居心地が良いと感じているという結論。  
 ○コミュニティは加入者が減っているところもあり、まだ出来ていないところもある。  
 ○まちづくりの項目は、まだまだバリアフリーに対応していないところがある。鶴川街道がかなり危ない、自転車の通りがかなり大変という意見。  
 ○緑はちゃんとあるが、どこの緑を残すのかということが十分考えられていない。  
 ○市外との交流、市内10地区が横の交流をしながら情報交換をしていくネットワークづくり。  
 ○ツールとしては交流看板、ネット。自治会にもっと若い人が入っていくような新たな展開も必要。

テーマ⑧ 安心して快適に暮らせるまち

○概ね安心して快適に暮らしているなという全員の見解。  
 ○キーワードは安心、安全、快適。安心、快適というのは、安全が醸成されて醸し出されるのではない。  
 ○安全：災害の不安として、もし100年に1回の水害があったらどうなるのか。  
 ○安心：シルバーの方は一人になって認知症や食事の面も含めて不安があり、互助の促進、お互いが助け合うことが必要。また自身も自立しなければいけないということで、教育の促進が大切。  
 ○快適：iバスであったり、こうしたものも含めてもう少し移動手段の利便性があるのが良い。  
 ○一番重要なのはボランティアによる仕組みづくりで、例えば移動のための運転ボランティアのしくみ。ボランティア促進へのインセンティブとして、梨をプレゼントしたりなども、市に協力いただきながら仕組みを作っていく。

テーマ⑨ 誰もが活躍し輝けるまち

○キーワード：皆が集まる場所、つながる場所、そういう仕組みが欲しい。  
 ○皆が集まる場所として、緩やかに集まる場所、使える場所を作る。(6駅各駅にあった方が良い)  
 ○その場にコーディネーターが欲しい。福祉担当など縦割りではなく、皆が集まるのをサポートしてくれる人(知識とモラルがある)  
 ○情報発信：仲間が集まるための情報を発信。集まって何かをして欲しい人と何かをしたい人などを、仲間を集めて外に紹介する人が必要。